

インフォーマーショ サーキュラー no. 24

1976年8月

目 次

I	第9回総会及び第15回運営委員会報告	1
II	第9回大会を終って	3
III	DGDの編集について	3
IV	国際発生生物学会議の準備状況及びプログラム	4
V	会長運営委員の選挙について	6
VI	書評 岡田 善雄「細胞融合と細胞工学」	6
	ブラッシュェ「分子発生学」毛利 秀雄, 安増 郁夫訳	7
VII	DGD充実のための基金募集経過	8
VIII	会員移動	8
IX	日本発生生物学会会則	11

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物学教室内

事務局よりのおねがい

1. 会費納入のお願い

学会の会計が諸物価の値上り、会費滞納などのため大変苦しくなっています。会費の納入に御協力下さい。なお会費は前納制ですので、昭和52年度会費未納の会員も至急御納入下さいますよう、お願い致します。封筒に「前金切れ」と捺印があるのは、昭和52年度会費未納を意味します。会費は同封赤色振替用紙にてお払い込み下さい。念のため、年間会費は昭和51年度まで4,500円、昭和52年度は6,000円です（I、③項参照）。

加入者名 日本発生生物学会

口座番号 名古屋 42801

2. 現在DGDの基金を募集中です（サーキュラーNo 22 参照）

1口 1,000円（1人何口でも可）

払込先 郵便振替名古屋 42801

日本発生生物学会

（振替用紙の裏面に“DGD基金”と説明して下さい）

3. サーキュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと（たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など）、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。今回はじめて書評をのせました。御希望があればお申し込み下さい。なお、原稿は事務局、庶務幹事、あてお送り下されば、幸いです。

I 第9回総会及び第15回運営委員会報告

総会は5月28日午後、阪大微研講堂において行なわれた。議長は渡辺浩氏（東教大）。主な報告審議事項は次の通り。

- ①50年度決算報告（別表1）が緋田研爾前会計幹事によって行なわれ、越田豊、岩松鷹司両会計監査委員より、帳簿を監査の結果、適正であったことが報告された。
- ②51年度予算案が会計幹事より説明され、承認された（別表2）。
- ③会費値上げについて会計幹事より趣旨説明がなされ、討議の結果、52年度より学会費を6,000円とすることが決定された。
- ④会則改正について庶務幹事より説明があり、以下の如く改めることが決定された。なお、この号の巻末に改正された会則が載っております。
 1. 会則の冒頭に「会則は本則、付則、選挙細則よりなる」を入れる。
 2. 本則第5条、2項末尾に「会長が不測の事故などにより、その任務を遂行できなくなった時は、運営委員会の議を経て会長代行を置くことができる。」を入れる。
 3. 本則第11条「本会の会則及び付則の変更は」を「本会の会則の変更は」に変更する。
 4. 付則第3条、1項のうち、「その際、運営委員会はそれぞれ若干名の……」の一文を「その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる」に変更する。
 5. 運営委員選挙細則第4条のうち「ただし、記名された数が14名に……他は有効とする」の一文を削除する。
- ⑤DGD編集の現状と将来の方針について岡田節人編集主幹より所信が述べられた。（編集局よりの報告参照）。
- ⑥国際発生生物学会議についての報告が岡田節人氏により行なわれた（後述）。
- ⑦52年度の大会は三菱生命科学研究所（東京）で開催を引き受ける旨、加藤淑裕氏（代理、山形達也氏）より報告があった。

総会に先立ち27日夜、運営委員会が行われた。

出席者：梶山（会長）、江口、岡田（善）、岡田（節）、酒井、毛利、石崎（以上、運営委員）、越田（会計監査）。事務局より石崎、緋田、石母田、井出。DGD編集局より小嶋。

報告、審議事項は総会報告の項と重複するものは割愛するが、他に今秋行われる会長及び運営委員選挙の選挙管理委員として、波磨忠雄氏（長）、高田健三氏、岩井川幸生氏の3名が推薦された。

別表1 50年度決算報告

収	入	支	出
前年度繰越し	431,916 ^円	編集局経費	1,248,113 ^円
学 会 費	2,099,050	事務局経費	892,830
DGD売上げ	2,069,451	運営委経費	77,224
広 告 代	260,000	DGD印刷製本費	3,631,500
単行本売上げ	197,880	サーキュラー印刷費	87,500
文部省助成	570,000	講演要旨印刷費	306,000
第8回大会委寄付	176,623	振替手数料	20,410
利 息	19,488	次年度繰越し	399,331
講演要旨売上げ	1,000		
基金より借入れ	837,500		
	6,662,908		6,662,908

別表2 51年度予算案

収	入	支	出
前年度繰越し	399,331	編集局経費	1,850,000
学 会 費	2,850,000	事務局経費	1,000,000
DGD売上げ	2,000,000	運営委経費	50,000
広 告 代	300,000	DGD印刷製本費	4,200,000
単行本売上げ	900,000	サーキュラー印刷費	100,000
文部省助成	750,000	第9回大会講演要旨印刷費	350,000
利 息	20,000	第9回大会援助費	50,000
DGD充実の為の基金	250,000	運営委員、会長選挙費	50,000
団氏記念論文著者負担分	350,000	振替手数料	30,000
		会員名簿作成費	80,000
		予 備 費	59,331
	7,819,331		7,819,331

II “第9回大会を終って”

昭和51年度の大会を無事終了できて安堵しています。学会員皆様の御援助の賜と感謝しています。特に座長の方々には、私共の依頼を快く引受けて下さって有難うございました。又学会講演のスケジュールや抄録集の作製は渡辺一雄博士（鐘紡がん研）の努力に負うところ大で心から感謝します。私も彼の説明を聞きながら抄録を全部勉強させてもらいました。

学会運営はなるべくお金のかからぬようにしたいとかねがね思っていましたので、阪大微研の講堂を会場にあてました。自動的に一会場3日のスケジュールになり、皆様方にかえて長期の滞在費の支出を強いることになりました。然し一方では、会場費が節約でき、懇親会を無料にできました。Saxén, Ebert 両氏をはじめ沢山の方々が参加下さって、なごやかな雰囲気が生まれたことは主催者側としては、嬉しいことの一つでした。

分科会を開かなかったことなど、今迄の学会運営に比べて小じんまりさせてしまいましたが、これもまた良しと思っています。色々と不備な点があったことと思いますが、大家の楢山先生から若い方々までの広い層の演者が含まれ、又先輩の先生方も多数御参加下さって熱心に研究の行方を見守っておられ、すばらしいと感じています。現在の日本では稀に見る活力のある学会であるという印象を強くもちました。これからの学会のいよいよの発展と、なごやかな雰囲気の永続することを願って第9回大会の感想を終わります。

(大会委員長 岡田善雄)

III DGDの編集について

現況：DGD, vol. 18, No 2は現在著者校正が終り、近く配布します。論文10篇が掲載されています。No 3は現在編集事務進行中で、7月上旬に印刷に回付します。18篇の論文を掲載予定です。6月20日現在で、1976年に入りましてから当オフィスに到着しました寄稿論文は45篇であります。団先生の記念論文を募集したことは、寄稿論文数の増加の一因であります。それを除きましても寄稿される論文の数は年々急増しつつあるようです。1976年度中には50篇以上の論文を印刷する必要があると思われます。寄稿論文数の増加は、それだけ数多くの会員にDGDを利用頂いていることでもありますから、その責任を果すべく努力したいと思っております。一方、DGDの規模の増大はもはや必然と考えられますので、会員諸氏の一層の御理解と御支援をお願いします。原稿作成についてのお願い：細部について、いくらかのお願いがあります。

1) 原稿はオリジナルの他に、かならずコピー2部をつけて下さい。写真は、レフェリーの判定に必要な場合が多いのでXeroxコピーでなくプリントしたものを送って下さい。

2) オリジナル, コピー1, コピー2はそれぞれの表, 図をつけてセットにしてまとめて送っ

て下さい。これは当方の事務を著しく円滑にし、かつ紛失を防ぐこととなりますので是非願います。

3) 写真などを、いくらかまとめて掲載の必要のある場合は台紙にはって下さい。投稿規定には“1組は unmounted” となっておりますが、これは必要ではありません。但し、台紙にはあまり厚い紙を使わないで下さい。ときにはかえって写真にシワを作ることになり、また厚い台紙による郵送費の増大はかなりのものです。

4) 原稿の第一頁をタイトル、所属などのみに用いられる方が多いのですが、タイトル、所属、著者名に、ただちにアブストラクト (abstract というタイトル不要) に続けて下さい。別紙に running タイトル、校正の送り先、内容、希望別刷数その他を、running タイトル以外は日本語で書いたメモをそえて頂くと大変便利です。

(DGD編集主幹 岡田節人記)

IV 国際発生生物学会議の準備

1) 1977年の国際発生生物学会議のプログラムについては、学会本部所属の小委員会(委員長、J. D. Ebert, 岡田)で検討中でありましたが、このたび下記のような内容を決定しました。この実行につき、J. D. Ebert および学会会長 L. Saxén と日本側の準備委員のいくらかの方々と詳細に打合わせを行ない、この内容にそって実行を計画します。Symposium speakers および Discussion Group Meeting のオルガナイザー宛には招待を発送し、現在交渉中であります。

プログラム作製の作業にあたっては、多くの会員から貴重な意見を寄せて頂きまして感謝します。限られた時間と予算内での会議でありますので、お寄せ頂いた御意見に充分お応えできなかった点の多いことを御諒承下さい。

2) 「会議サーキュラー」の次号は、今年秋に刊行される予定です。このサーキュラーには決定した speakers の名も入れてプログラムを掲載し、あわせて一般講演の申込みについての手続きも示される予定です。会議事務局(代表、寺山宏; 東大理学部動物学教室)へ申込みれば配布されますので、是非手続きをとられるようお願いします。

(岡田節人記)

INITIATION OF DEVELOPMENTAL CHANGE

SESSION 1

1. Genetic control of oogenesis
2. Oogenesis: Surface changes during maturation
3. Oogenesis: Biochemistry and fine structure
4. Fertilization emphasizing changes at membrane

SESSION 2

5. Membrane-initiated changes: Somatic cell fusion
6. Membrane-initiated changes: Lymphocytes
7. Membrane-initiated changes: Cellular slime molds
8. Teratocarcinoma as a model system

SESSION 3

9. Reiji Okazaki memorial lecture: The molecular fine structure of genes
10. Gene action in early development
11. Early events in mammalian embryogenesis
12. The initiation of abnormal development

SESSION 4

13. Determination
14. Transdifferentiation
15. Pattern formation
16. Genetic basis of behavior

DISCUSSION GROUPS

1. The role of poly (ADP-ribose) in development
2. Contractility in developmental system
3. Cell movements in morphogenesis
4. The cell cycle
5. The neural crest

6. Cell differentiation in insects
7. The use of mutants in analysing development
8. Mammalian reproduction and early development
9. Physiology of the fetal period

V 会長，運営委員の選挙について

総会報告の項でお知らせしましたように，会則の付則第3条の一部を改正しました。これは広く会員からの候補者推薦が行われることが学会の発展に好ましかろうとの配慮にもとづくものです。投票用紙の郵送は9月下旬に行ないますので，推薦文等を9月16日迄に事務局宛お送り下されば，会員への送付の際に同封いたします。

VI 書 評

細胞融合と細胞工学

岡田 善雄著

講 談 社

HVJによる細胞融合現象が発見されて以来すでに20年を経過した。そして最近の10年間この現象に関連ある研究はめざましく発展し多大の成果をあげたことによって，現在細胞生物学の分野で大きな比重を占めている。本書はそれらを専門的に解説しており，関心ある者にとって必読の書である。

著者はこの現象の発見者であり，一途にそれを実験手段として細胞を扱ってきた人であるから，この間に得られた知見と現状が，僅か本文130頁ではあるが，内容豊富に生き生きと解説されている。

本書の前編は，融合現象そのものの基礎問題を主に扱っている。ウイルスを介しての融合，細胞膜の性質，融合細胞の意義が要領よくまとめられている。融合の機構は著者自身と協力者が精力的に進めてきた主な分野であり，その発展の経過は若い人にとって好適な実験指導書になる。後編は細胞融合の現代生物学への応用面が解説されている。細胞工学という語は馴染めないが，内容は雑種細胞の形成とその挙動，遺伝子地図，遺伝病の解析などの融合細胞の利用と，がんウイルスや細胞膜生理学といった関連分野の現状が紹介されている。細胞融合は細胞膜を，そして融合細胞が細胞を知る原点となって，融合技術の発展と他の生物学的技術とが結びついて，細胞生物学全般の問題を包み込む程に発展し，得られた成果と応用の広さはまさに見事である。

またこのような内容を書くに至った著者のアイデア，論理，解析の展開は十分吟味するに値す

る。細胞融合という手段を通して、著者の現代生物学についての考えが随所にさりげなく述べられている。言うなれば本書は、著者が細胞融合という道によって見た現代細胞生物学であり、自然への挑戦の姿勢とモラルとを世に訴えた書である。融合現象発見後、現在の発展から見ればあまりにも過小評価された時代の長かったこと、そして関連応用分野の研究が国内で殆んど育たなかったことなどの無念さが、行間ににじんでいると考えるのは思い過しであろうか。本書は頑固に孤塁を守った苦勞の開花である。単に細胞融合の専門書としてではなく、自然へ挑戦した著者の現代生物学研究の姿勢と展開とは、これからの若い人々にとって有益な指針となるであろう。

全文一見平坦な叙述であるが内容は高度であり、実験・結果の説明が簡潔なので、問題の理解などに相当の知識を必要とする個所が多々ある。いわゆる教科書的ではないので、初学者や専門外の人が本書を気軽に読もうとすると苦勞するであろう。

(伊藤道夫)

ブラッシュ「分子発生学」

毛利秀雄・安増郁夫訳

講談社サイエンティフィック

J. Brachet の名は、戦後間もなく発生学を学んだものにとって忘れることのできないものである。RNAがタンパク合成に重要なことを示した先駆者である。きっと、故岡崎令治も関心をもちていたにちがいない。私なども、よみもしない彼の *Embryologie Chimique* を買ったものだった。その Brachet の新しい本 *Introduction to Molecular Embryology* (1974) がみごとな日本語となって出版された。訳者は、わが国の発生生物学をにやけている毛利秀雄・安増郁夫両氏である。

本書は10章からなっている。1. 記載発生学から分子発生学へ 2. 遺伝子はどのようにして特定タンパク質の合成を指令するか 3. 卵や胚はどのようにして形成されるか 4. 配偶子形成と成熟：卵と精子の形成 5. 受精：眠っていた卵はどのようにして目ざめるか 6. 卵割：細胞分裂の物語 7. 無脊椎動物卵の化学的発生学 8. 脊椎動物の化学的発生学 9. 形態形成期の核と細胞質の生化学的相互作用 10. 細胞はどのように分化するか：今後の展望。

200ページ足らずの小さな本であるが、現時点の分子生物学的知見がてぎわよく盛りこまれて、かっこの現代発生学入門書といえる。大学生の諸君には、なんだこんなことがわかっていないのか、自分がやってみようという意欲をもやさせることであろう。生物学の他分野の非専門家にとっては、この生物学の源流ともいべき学問を要領よく眺めることができまことに便利である。父子二代の発生学者 Brachet の奥ふかい蘊蓄がところどころにあらわれている。とくにオルガナイザーの項では彼の期待から失望への過程が私たちにせまってくる。

訳はよみやすく、りっぱなできばえである。著者の思いちがいを訂正する訳註がある。また、訳註の特色として、日本で行なわれた成果の指摘がある。これは、よいところみである。そのついでにいえば、図10のタバコ・モザイク・ウイルスの形成についての Klug らのディスク説に岡田吉美氏（東大・生化）の訂正（1973）のあることを附記しておきたい。

これからの発生生物学にとって、本書はスターティング・ポイントとなろう。

（丸山 工作）

Ⅶ DGD充実のための基金募集経過

DGD基金は現在の残148,000円になっております。今期基金をお寄せ頂いた方の御芳名を下記させていただきます。（アイウエオ順）

なお基金募集は現在も継続中ですので、ふるってお寄せ下さいますようお願いいたします。

払込先 郵便為替 名古屋 42801

日本発生生物学会

1口1,000円（何口でも可）

振替用紙裏面に“DGD”と明記して下さい。

DGD基金をお寄せ頂いた方のリスト

相原 宏，浅島 誠，大滝 哲也，岡崎 嘉代，岡田 善雄，小黒 千足，香川 務，加藤 憲一，川上泉研究室，久保田 宏，小嶋 学，近藤 昊，坂本 義彦，田原 胖，中村 逸雄，奈良 典明，根平 邦人，原田市太郎，藤原 昭子，保倉 進，八木 静夫，安増 郁夫，横屋 幸彦，若杉 昇，渡辺 浩

Ⅷ 会 員 移 動

<新入会員>

安蘇 規子	岩手医科大，歯，第二解剖	①表皮および口腔粘膜の形態分化・機能分化
安部 真一	熊本大，理，生	①動物細胞の分化形質の転換 ②アカハライモリ
阿部 弘和	山口大，教育；生	①孢子虫類の核酸の代謝 ②昆虫のグレガリナ類
井口 泰泉	(自)岡山市宿393-3(〒700)	①周生期ホルモンの持続効果 ②マウス
石川 知一	京大，理，動	①哺乳類の初期発生，分化 ②マウス，テラトーマ
井出 宏之	名大，理，生	①培養色素胞の分化，色素形成 ②ウシガエル
岩崎 信一	富山化学工業，総合研究所 第一生研	①薬物の動物に対する安全性（催奇形性）②ラット・マウス・ウサギ

薄井 紀子	帝京大, 医, 一解	①生殖細胞形成, 受精, 初期発生 ②モルモット・ハムスター
海保 正義	(自)横浜市港南区日野町 3,999 かもめ団地7 -702	①腎尿細管の分化, 発生 ②ラット
木村 建	九大, 農, 動	①両生類の変態 ②ヒキガエル, アカガエル, ツメガエル
佐方 功幸	九大, 理, 発生物	①両生類初期発生に於けるRNA合成 ②ツメガエル
田伏 洋	(自)大阪府南河内郡狭山町西 小台3丁目14-16 (〒589)	①フレンド白血病細胞の分化機構 ②フレンド細胞
茶谷 文雄	名大, 理, 生	①昆虫ホルモンの作用機作 (卵巣エクジソン) ②カイコ
西尾 優子	九大	①RNA合成の調節 ②ツメガエル
西村 敏一	愛知医科大, 一解	
野々山 清	(自)名古屋市天白区天白町平 針住宅13-24	①鶏胚発生とウイルス ②ニワトリ胚・ニューカッスル病ウイルス
橋本 明彦	(自)大阪市天王寺区南河堀町 5栄荘 (〒543)	①鶏胚血球の分化とウイルスの相互作用の解析 ②鶏卵・ウイルス
浜島 紀之	大阪市大, 理, 生	①始原生殖細胞の微細構造 ②イモリ
平間 稔	鐘紡ガン研究所	①卵形成から卵割にかけての蛋白合成に関するメカニズム, 特に不活性 mRNP の形成, 蓄積とその活性化のメカニズム ②ウニ, ヒトデ, アルテミア
藤沢 敏孝	国立遺伝研, 生化学遺伝	①形態形成及び細胞分化 ②ヒドラ
藤本 弘一	三菱生命, 細胞生物	①マウス T/t -locus ミュータントにおける発生遺伝学的研究 ②ハツカネズミ
三角 佳世	九大, 理, 生	①RNA合成の調節 ②ツメガエル
増田 清	北大, 農, 農業生物, 作物生理	①Cytokinin による細胞分裂促進作用 ②Glycine max (var. Acme.)
保田 叔昭	九大, 理, 生	①初期発生における遺伝子活性の調節 ②ツメガエル
柳沢 桂子	三菱生命研, 細胞生物	①マウス T/t 突然変異体の発生遺伝学的研究 ②マウス

<退会会員>

菊山 宗弘 阪大, 理, 生
栗山 了子 東大, 理, 生化
下郡山正己 東大, 理, 植
白井 浩子 東大, 海洋研
永井 克孝 東京都老人研, 生化
日野 精一 広島大, 理, 植
棟方 明陽 北海道教大, 函館分校, 生
柳田 友道 東大, 応微研
山根 伸一 宮崎大, 農, 水産増殖
山本 紘樹 京大, 理, 動
渡辺 聡子 奈良県医大, 2 病理
蘇 雄 永 金南大学校, 文理科大学, 生物学科

<住所変更>

(新)

(旧)

天野 実	広島大, 総合科学部	国立がんセンター, 生物
五十嵐靖之	群馬大, 医, 生化	東大, 理, 生化
石川 優	愛媛大, 理, 生	名大, 理, 臨海
大滝 哲也	金沢大, 理, 生	国立予防衛生研
岡田 益吉	筑波大, 生物科学系	東教大, 理, 動
小沢鉄二郎	東京医歯大, 難治疾患研究所	東京医歯大, 医, 薬理
川上 泉	鹿児島大, 理, 生	九大, 理, 生
斉藤 利子	(自)東京都葛飾区青戸3-19-31-11(〒125)	東京都立八潮高校
島倉享次郎	(自)札幌市北区麻生町1-7-8 (〒001)	(自)札幌市北区麻生町1-801-607 (〒065)
庄野 邦彦	東大, 教養, 基礎科学, 生体協関学研 究室	北里大, 薬, 生薬
鈴木 昭憲	東大, 農, 農化	(自)松戸市小金原台地3-18-6-105
鈴木 範男	帝京大, 医, 生化	(自)東京都板橋区板橋3-15-4 星野ビル302号室
高田 英夫	帝塚山短大, 生	大阪市大, 理, 生
高橋 延昭	札医大, 臨海医学研究所	札医大, 第一生理
恒松 康彦	東京理科大, 理工, 応用生物科学	京大, 理, 生物物理

(新)

(旧)

中村 治	(旧)高槻市西真上2-21-11 (〒569)	大教大, 生
中村 和成	島根医大, 解剖	神戸大, 医, 一解
林 孝三	(旧)東京都豊島区目白4-10-24 (〒171)	東教大, 理, 植
日原 冬生	愛媛大, 教養, 生	(旧)東京都北区西が丘1-10-5
真野 嘉長	東大, 医, 栄養	東大, 医, 生化
森 祐二	広島大, 平和科学センター	奈良医大, 細菌

IX 日本発生生物学会会則

会則は本則・付則・選挙細則よりなる。

本 則

第1条 本会は日本発生生物学会 (Japanese Society of Developmental Biologists: 略称はJSDB) という。

第2条 本会は発生生物学の進歩と普及をはかることを目的とする。

第3条 本会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 欧文誌の刊行
2. 大会の開催
3. その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 本会の会員は通常会員、賛助会員の2通りとする。

1. 通常会員は本会の趣旨に賛同し、所定の手続を経て、通常会費を納めたもので、欧文誌などの刊行物の配布を受ける。また、大会での研究発表の申し込みをすることができ、総会の議事に参加することができる。
2. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し、本会の承認をうけ、所定の賛助会費を納めた個人または法人で、欧文誌などの刊行物の配布をうける。

第5条 本会には次の役員をおく。

会長1名・運営委員若干名・幹事若干名 (うち幹事長1名)・欧文誌編集委員若干名 (うち編集主幹1名)・会計監査2名

1. 会長は本会を代表し、会務を統べる。任期は2年とし、連続3期つとめることはできない。
2. 会長および運営委員は運営委員会を構成し、本会の要務を審議し会の運営にあたる。運営委員会は会長・3名以上の運営委員・30名以上の通常会員のいずれかの要請により開か

れる。

運営委員の任期は2年とし連続3期をつとめることはできない。会長が不測の事故などによりその任務を遂行できなくなった時は、運営委員会の議を経て会長代行をおくことができる。

3. 幹事長および幹事は会長を助けて庶務・会計などの日常の会務を処理する。
4. 会計監査は前年度の決算を監査する。
5. 欧文誌の編集主幹および編集委員は編集委員会を構成し、編集に関しての一切の責任を負う。編集主幹および編集委員の任期は3年とする。

第6条 本会の会計年度は1月1日に始まり同年の12月31日に終る。

第7条 本会は原則として年1回定時総会を開き、会務を協議し、議決する。なお会長が必要と認めたときには、臨時総会を開くことができる。

第8条 本会は定時総会のとき大会を開き研究発表などを行う。大会には大会委員長1名と大会委員若干名をおく。大会委員長は会長が委嘱し、大会委員は大会委員長が委嘱する。大会の運営は大会委員長の責任において行なう。

第9条 通常会員が会費を1年以上滞納したときには除名することがある。

第10条 本会は地方支部をおくことができる。

第11条 本会の会則の変更は総会において協議し、出席会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

付 則

第1条 本会の事務所は運営委員会の議をへて会長が委嘱する。

第2条 会費は次の通りとする。

1. 通常会員は年額4,500円を年度始めに納入する。
2. 賛助会員の賛助費は年額10,000円以上とする。

第3条 会長および運営委員の選出方法は次の通り定める。

1. 会長および運営委員(14名)は、通常会員の投票により選出される。その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる。
2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員(3名)が行なう。

第4条 幹事長および幹事は会長が委嘱し、運営委員会の承認をうける。

第5条 欧文誌の編集主幹 運営委員会が委嘱する。編集委員は9名とし、まず運営委員会が3名を選び、残り6名は編集主幹が指名する。

第6条 会計監査は運営委員会の議を経て会長が委嘱する。

第7条 本則第3条3項に定める事業を行なうために、委員会を設けることができる。

委員は会長が委嘱し、うち1名を委員長とする。

第8条 運営委員会は少なくとも10年毎に、広く会員の意見を聞き、本会のあり方に関して根本的な再検討を加えねばならない。

第9条 本会則は昭和47年1月1日より施行する。

申し合わせ事項

1. 毎年1月1日から総会までの会の運営は会長の責任による暫定予算によって執行し、その会計年度の予算とともに総会で承認を受ける。

脚注1：1971年8月25日第4回総会にて承認。

脚注2：付則の第1条、第2条、第3条は昭和49年6月22日、第7回総会に於て変更した。

脚注3：昭和51年5月28日、第9回総会に於て前文を追加、本則第5条、第11条、付則第3条を変更した。

会長選挙施行細則

第1条 本細則は会則に定められた会長の選出に関する手続である。

第2条 選挙の施行に関する一切の管理は選挙管理委員（委員は委員会を構成し、1名を委員長とする）の責任の下で行なう。

第3条 選挙は通常会員の単記無記名投票によって行なう。

1. 投票用紙は選挙管理委員会所定のものに限り、所定の期日までに到着するよう郵送されなければならない。
2. 投票用紙には被投票者の姓名を明記すること。ただし、同姓同名の被選挙人が2名もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関名などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする。ただし、2人もしくはそれ以上記名されたり、なに人を指すか判別不可能な記名があった場合は無効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第5条 第1次選挙において有効投票の過半数を得たものを当選者とする。過半数を得たものがないばあいは得票数の多いもの3名を第2次選挙の候補者とする。ただし、上位3番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が4あるいは、それを越える場合には、これら同数得票者を第2次選挙の被選挙人とし、第3条に従って単記無記名投票とする。

第6条 第2次選挙において最多票を得たものを当選とする。ただし、最多得票数が2名もしくはそれ以上ある場合は管理委員の抽選によって当選者を決定する。

第7条 選挙の結果はただちに会長に報告され、当選者への通知は選挙管理委員長名で行なわ

れる。

運営委員選挙施行細則

- 第 1 条 本細則は、会則に定められた運営委員の選出に関する手続である。
- 第 2 条 (会長の場合と同じ——省略)
- 第 3 条 選挙は通常会員の14名連記無記名投票によって行なわれる。
1. 投票用紙は選挙管理委員会が定めたものに限り所定の期日まで到着するよう郵送されなければならない。
 2. 投票は14名連記とし、被投票者の姓名を明記すること、ただし、同姓同名の被選挙人が2人もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関などを付記すること。
- 第 4 条 第 3 条に従って記載された投票を有効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。
- 第 5 条 当選者は得票数の多いもの14名とする。ただし、得票数で上位14番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が15あるいはそれを超える場合は下位の同数得票者について選挙管理委員の抽選により当選者を決定する。
- 第 6 条 会長が運営委員より選ばれた場合は次点者をくりあげる。
- 第 7 条 (会長の場合と同じ——省略)

—— 科学の先端をゆく

スフィンクス印純正試薬 ——

名古屋片山化学株式会社

名古屋市中区丸の内3丁目11番4号

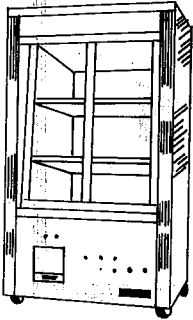
TEL. 971-6531 (代表)

岡崎出張所	岡崎市大樹寺町字古屋敷3の1
〒444-21	電話 (0564) 21-4203 (代表)
小牧出張所	小牧市大字入鹿出新田字宮前1107
〒485	電話 (0568) 73-2291 (代表)
浜松出張所	浜松市常盤町282
〒430	電話 (0534) 53-3118 (代表)

NK式生物研究用機器

NK式電気低温恒温器(送風循環型)

高精度普及型

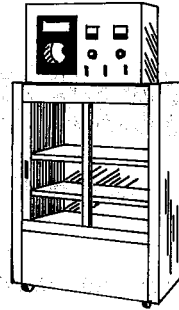


型式 仕様	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
内法 開口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温 度 範 圍	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	24万円	27.5万円	30万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型)

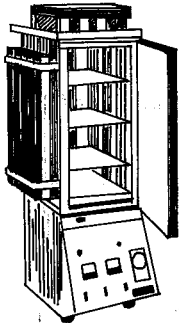
四季の温度がプログラムで自由に再現できます！



型式 仕様	LP-100 -3P	LP-150 -3P	LP-200 -3P
内法 開口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温 度 範 圍	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	43万円	45万円	48万円

NK式人工気象器

植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派！

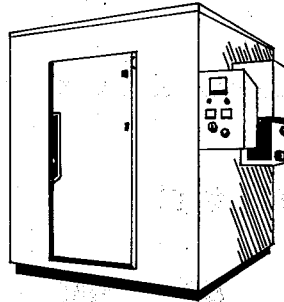


型式 仕様	LH-100 -R型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
内法 開口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温 度 範 圍	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	温度のみ 43万円	温・湿 度付 65万円	プログラ ム付 55万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽

組立、移設、増設が思いのまま！

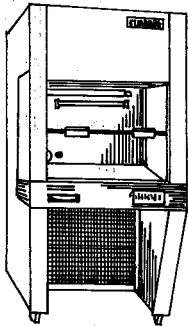


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪 1,080,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪 1,170,000円
より各種

※詳細はプレハブシリー
ズカタログをご請求下
さい。

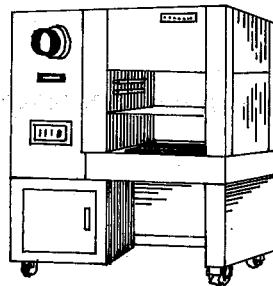
NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥750,000
NKB-VS-1300
¥850,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型)

無菌作業の能率アップに！



NKB-VW-850
¥1,000,000
NKB-VW-1300
¥1,300,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本 社 〒550 大阪市西区江戸堀北通1丁目25番地
東 京 営 業 所 〒183 東京都府中市清水ヶ丘1の3小林ビル
工 場 〒577 東 大 阪 市 新 家 東 町 5 4 番 地

電 話 大 阪 06 (443)0712(代)
電 話 府 中 0423 (65) 3245
電 話 大 阪 06 (788) 1383~4

贊助會員

三菱化成生命科学研究所

東京都町田市南大谷 11 号

贊助會員

和研薬株式会社

京都市左京区北白川西伊織町25 電話 京都 (075) 721-0491 (代)